

# 鉱工業生産活動, 回復基調に転じる

## 昭和58年茨城県鉱工業指数の概要

### 1. 全国の動向

#### 1) 生産

鉱工業生産は、57年には世界同時不況の影響を受けて、低い伸び(前年比0.3%上昇)にとどまったが、58年に入ってから、アメリカの景気回復等により、前半は外需主導の回復を示し、年央以降は内需にも動意がみられたことから、前年比3.6%の上昇となった。

これを四半期ごとの推移についてみると、1～3月期は前期比0.9%、4～6月期は同1.9%、年後半の7～9月期は同2.6%、10～12月期は同2.9%上昇となり、4期連続の上昇を示し、生産活動は緩やかながら上昇をみせている。(表-1)

生産の動向を加工型産業と素材型産業に分けてみると、57年に輸出の減少等から低調な動きを示した加工型産業は輸出の増加等により58年は前年比7.1%の上昇と急速な回復を示した。また、素材型産業は、在庫調整がかなり進展したこと等を受けて同1.8%の上昇と、3年連続の低下から漸く上昇に転じた。

業種別にみると、機械工業では、電気機械工業がVTR、半導体素子・集積回路等輸出関連品目の好調から、引き続き高い伸びを示し、前年比19.6%上昇となり、精密機械工業もウォッチ(電池式)の伸び等から同6.6%の上昇となった。一方、輸送機械工業と一般機械工業は、船舶等一部品目の輸出不振や設備投資・建設投資が力強さを欠いたこと等から、それぞれ同△4.5%、同△0.8%の低下となった。

機械工業を除く鉱工業では、好調なファインケミカルに加え、石油化学製品も上昇軌道に乗った化学工業が同6.1%上昇、雑誌創刊や各種選挙等からパルプ・紙・紙加工品工業が同5.8%上昇となった他、窯業・土石製品工業、非鉄金属工業もそれぞれ同1.3%、同3.1%上昇となった。

表-1 鉱工業指数の推移

	57年	58年	(55年=100, 季調済)							
			57年				58年			
			1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	101.3	104.9	102.3	101.1	101.6	100.4	101.3	103.2	105.9	109.0
前期(年)比	0.3	3.6	△0.9	△1.2	0.5	△1.2	0.9	1.9	2.6	2.9
前年同期比	—	—	2.8	1.2	0.0	△2.4	△0.9	2.1	4.2	8.6
出荷	99.9	103.4	100.6	99.6	100.2	99.1	100.3	102.0	104.5	106.6
前期(年)比	△0.7	3.5	△1.3	△1.0	0.6	△1.1	1.2	1.7	2.5	2.0
前年同期比	—	—	1.2	△0.2	△1.3	△2.4	△0.3	2.4	4.3	7.6
在庫	97.9	92.8	102.0	102.4	101.1	98.9	97.2	96.6	94.5	94.2
前期(年)末比	△1.5	△5.2	2.4	0.4	△1.3	△2.2	△1.7	△0.6	△2.2	△0.3

表-2 鉱工業指数の推移

		(55年=100, 原指数)				
		54年	55	56	57	58
茨城県	生産	98.1	100.0	100.3	100.3	105.1
	対前年増減率(%)	12.2	2.0	0.3	0.0	4.8
	出荷	99.3	100.0	102.0	104.2	110.2
県	対前年増減率(%)	11.4	0.7	2.0	2.2	5.8
	在庫	91.6	105.4	101.2	99.5	90.1
	対前年増減率(%)	4.3	15.1	△4.0	△1.7	△9.5
全	生産	95.5	100.0	101.0	101.3	104.9
	対前年増減率(%)	7.3	4.7	1.0	0.3	3.6
	出荷	97.2	100.0	100.6	99.8	103.4
国	対前年増減率(%)	6.8	2.9	0.6	△0.8	3.5
	在庫	95.2	103.1	99.4	97.9	92.8
	対前年増減率(%)	3.3	8.3	△3.6	△1.5	△5.2

図-1-1 鉱工業指数の推移

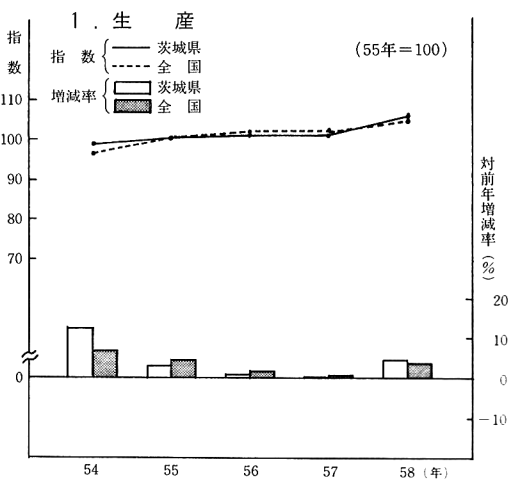
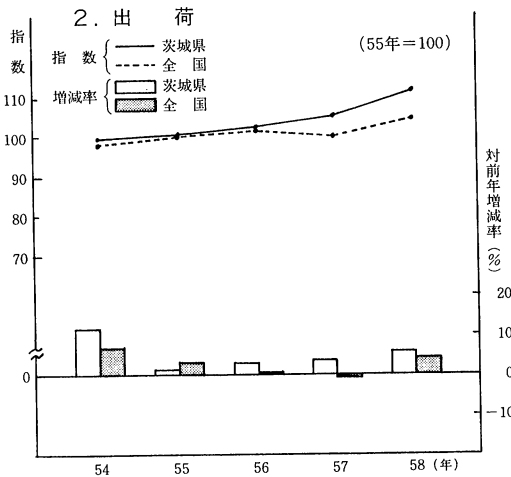


図-1-2



他方、鉄鋼業は、好調な中国向け鋼材輸出等に支えられ、1～3月期を底に反転上昇しているものの、年でみれば同△2.5%の低下、繊維工業も内需不振のため同△0.6%低下となった。その他、金属製品工業は同△4.8%低下、石油・石炭製品工業は同△3.1%低下、木材・木製品工業は同△3.2%低下となった。

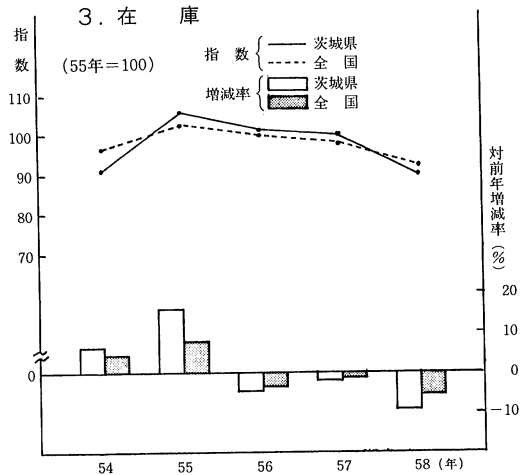
(2) 出荷

58年の鉱工業出荷は、前年比3.5%上昇した。特に電気機械工業、精密機械工業を中心とした機械工業の伸びが高く、前年比7.4%上昇した。

(3) 在庫

58年の鉱工業生産者製品在庫は、第2次石油危機以降続

図-1-3



いてきた在庫調整が順調に進展した結果、前年比△5.2%低下した。

2. 本県の動向

58年の本県における鉱工業指数をみると、生産は105.1で前年比4.8%上昇、出荷は110.2で同5.8%上昇、在庫は90.1で同△9.5%低下であった。(表-2、表-4、表-5、図-1)

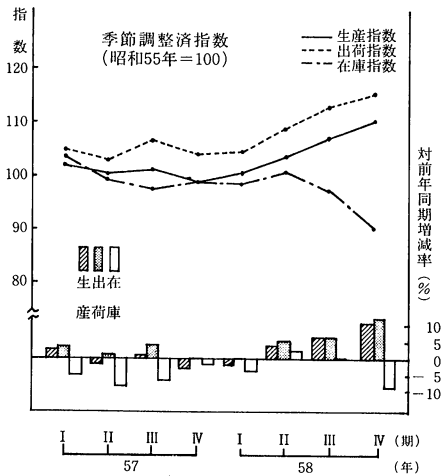
年間の動きを四半期別にみると(表-3、図-2)、生産は好調な機械工業に支えられ、1～3月期は前期比1.0%上昇、4～6月期は同3.9%上昇、7～9月期は同2.8%上昇、10～12月期は同2.6%上昇となった。出荷は輸出の伸びに加え、内需の拡大等により、1～3月期は前期比0.6%上昇、4～6月期は同4.5%上昇、7～9月期は同3.5%上昇、10～12月期は同2.8%上昇となった。在庫は、機械工業、化学工業を中心に在庫調整が進展し、1～3月期は前期比△0.5%低下、4～6月期は同1.7%上昇となったものの、7～9月期は同△3.0%低下、10～12月期は同△7.7%

表-3 鉱工業指数の四半期推移

(55年=100, 季調済)

		57 年				58 年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	季節調整済指数	101.8	99.6	101.0	99.0	100.0	103.9	106.8	109.6
	対前期増減率(%)	0.1	△2.2	1.4	△2.0	1.0	3.9	2.8	2.6
	対前年同期増減率(%)	3.2	△0.8	0.4	△2.6	△1.8	4.3	5.8	10.7
出荷	季節調整済指数	104.2	103.1	106.1	103.3	104.0	108.6	112.5	115.6
	対前期増減率(%)	1.0	△1.0	2.9	△2.6	0.6	4.5	3.5	2.8
	対前年同期増減率(%)	3.7	0.8	4.5	0.1	△0.3	5.3	6.0	11.8
在庫	季節調整済指数	103.3	99.0	97.4	99.3	98.8	100.5	97.5	90.0
	対前期増減率(%)	2.4	△4.2	△1.6	1.9	△0.5	1.7	△3.0	△7.7
	対前年同期増減率(%)	△4.7	△9.6	△6.5	△1.6	△4.3	1.6	0.1	△9.4

図一 2 鉱工業指数の四半期推移



低下となった。

前年同期比では、生産・出荷とも1～3月期には低下したが、4～6月期以降は上昇に転じた。在庫は、1～3月期に低下、4～6月期から上昇したが、10～12月期に再び低下した。

また、業種別生産指数をみると、56、57年と2年連続して低下した一般機械工業が上昇したのをはじめ、前年に引き続いて電気機械工業の上昇が目立った。一方、低下したのは、輸送機械工業をはじめ、鉄鋼業、繊維工業等であった。なお、機械工業全体では、ウエイトの大きい一般機械工業、電気機械工業等が上昇したため、前年比9.1%増となった。

本県と全国の指数の動きを比較してみると、生産は本県では前年比4.8%の上昇、全国も同3.6%の上昇となった。一般機械工業、電気機械工業、化学工業等が本県の指数の上昇に寄与したわけだが、全国の指数の上昇にも同様のことがあてはまる。

### 3. 主要業種の概要

#### (1) 鉄鋼業

58年の鉄鋼業の生産は、建設部門を中心とする需要の不振から91.8と前年比△4.6%低下となった。出荷につい

表一 4 業種別対前年増減率

(原指数, 増減率, 単位: %)

業 種	生 産		出 荷		在 庫	
	57年	58年	57年	58年	57年	58年
鉱 工 業	0.0	4.8	2.2	5.8	△1.7	△9.5
製 造 工 業	△48.4	△4.9	△46.9	△4.8	△38.6	159.8
鉄 鋼 業	0.0	4.8	2.2	5.8	△1.7	△9.5
非鉄金属工業	0.5	△4.6	8.4	△2.8	2.3	△17.1
金属製品工業	4.0	△1.0	7.6	△0.8	36.9	△10.3
機械工業	△1.7	8.1	18.2	9.6	△3.2	7.7
一般機械工業	0.6	9.1	1.7	13.0	△11.4	△9.8
電気機械工業	△3.5	7.0	△0.3	9.9	△7.9	△10.3
輸送機械工業	4.7	12.8	5.9	18.7	△14.6	△12.7
精密機械工業	△5.2	△7.5	△7.0	△5.1	△30.5	△32.9
窯業・土石製品工業	△3.1	16.4	△3.7	15.0	△24.1	54.9
化学工業	△6.4	4.4	△5.3	2.2	△8.4	△11.3
石油・石炭製品工業	△7.2	13.3	△5.5	12.7	△1.7	△11.9
パルプ・紙・紙工業	△13.4	6.5	△7.6	2.0	△11.8	5.9
繊維工業	10.9	6.7	7.4	3.5	4.5	6.9
織維工業	△1.5	△2.6	△5.5	△5.5	3.8	△15.4
木材・木製品工業	4.4	△3.6	4.3	△3.8	△9.7	△1.4
食料品・たばこ工業	2.2	△0.9	3.1	0.5	△5.4	△16.0
その他工業	4.7	0.9	2.8	1.7	2.1	△0.6
ゴム製品工業	7.6	3.3	7.4	△1.2	△56.9	9.5
皮革製品工業	△12.2	1.5	△14.3	0.2	△8.9	33.3
プラスチック製品工業	5.4	5.1	4.1	3.9	6.9	1.8
その他製品工業	6.0	△16.7	△3.0	△7.7	78.8	△27.4

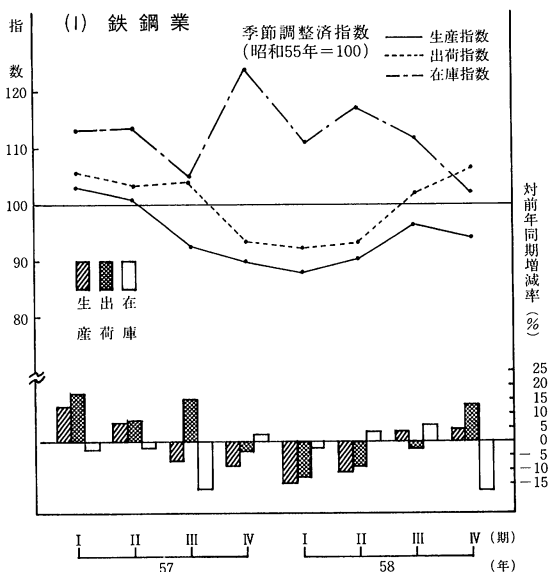
表一 5 財別対前年増減率

(原指数, 増減率, 単位: %)

財	生 産		出 荷		在 庫	
	57年	58年	57年	58年	57年	58年
鉱 工 業	0.0	4.8	2.2	5.8	△1.7	△9.5
最終需要財	1.0	7.0	3.7	8.6	△8.2	△6.0
投資財	0.5	1.0	5.0	1.6	△7.4	△5.9
資本財	1.7	1.2	3.3	3.0	△8.2	△13.1
建設財	△2.1	0.6	7.9	△0.7	△6.6	1.0
消費財	1.8	15.5	2.1	17.1	△9.5	△6.2
耐久消費財	2.3	31.7	2.9	37.9	△19.5	△6.2
非耐久消費財	1.4	0.0	1.5	0.3	2.9	△6.2
生産財	△1.3	2.0	0.5	2.5	4.9	△12.5
鉱工業用生産財	△1.3	2.5	0.9	2.5	4.1	△11.8
その他用生産財	△1.7	△9.2	△5.4	2.2	21.5	△24.9

ては98.2で同△2.8%低下、在庫は101.5で、同△17.1%低下となった。

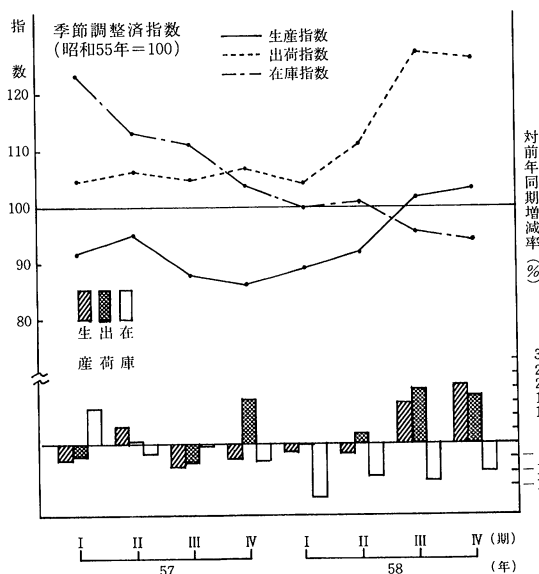
生産の年間の動きを前期比でみると、1～3月期△2.2%



の低下、4～6月期3.0%上昇、7～9月期5.3%上昇、10～12月期△1.7%低下となった。前年同期比では、4～6月期までは低下したが、7～9月期から上昇に転じた。品目別にみると、特殊鋼冷延広幅帯鋼、H型鋼等は上昇し、普通鋼熱間鋼管、特殊鋼熱間鋼管等は低下した。

(2) 一般機械工業

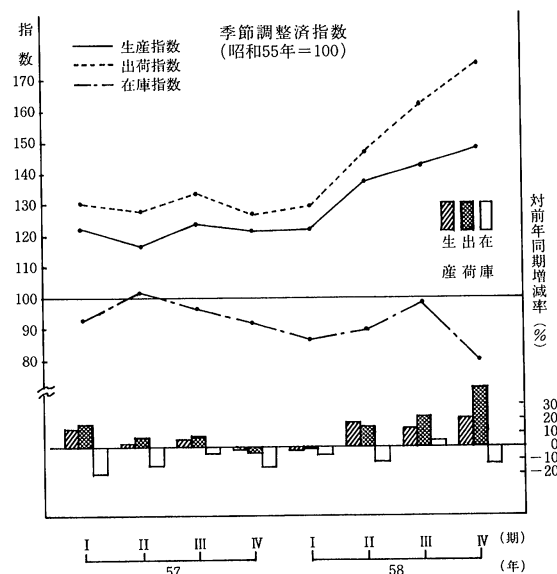
58年の一般機械工業の生産は、内需の拡大や輸出の伸びにより、96.1で前年比7.0%上昇となった。出荷は115.8



で、同9.9%上昇、在庫は101.1で、同△10.3%低下となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期4.7%上昇、4～6月期3.4%上昇、7～9月期9.1%上昇、10～12月期2.5%上昇となった。前年同期比では、4～6月期までは低下であったが、7～9月期以降上昇に転じた。品目別にみると、ウエイトの大きい土木建設機械では、装輪式トラクタ(20馬力以上)、トラッククレーン等は上昇し、ショベル系掘さく機械等は低下した。事務用機械では、電卓(ハンデ型)、電卓(記録型)等が上昇した。その他の品目では、印刷機械等が上昇し、タービン等が低下した。

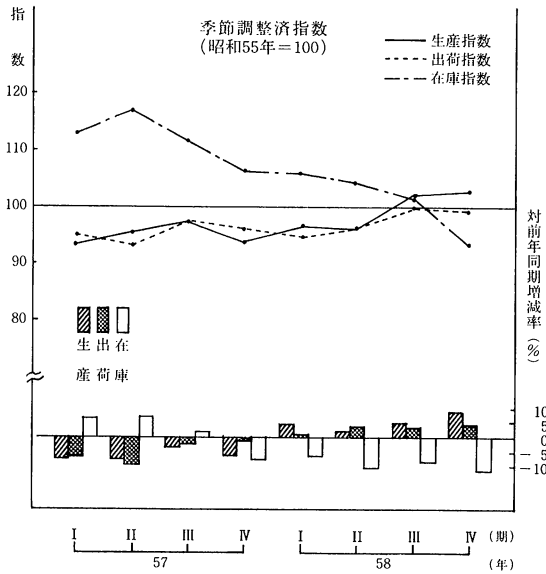
(3) 電気機械工業



58年の電気機械工業の生産は、内外需好調により、136.5で前年比12.8%上昇、出荷は152.6で同18.7%上昇、在庫は75.4で同12.7%低下となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期0.5%上昇、4～6月期11.5%上昇、7～9月期3.8%上昇、10～12月期3.9%上昇となった。前年同期比では、1～3月期は低下したが、4～6月期以降は上昇した。品目別にみると、ウエイトの大きい産業用電気機械では、高圧遮断器等が上昇し、特殊用途変圧器、計器用変成器等が低下した。民生用電気機械では、県内のヘアドライヤーは生産がなかったが、他の品目は上昇傾向を示した。テレビ・ラジオでは、内需拡大、輸出の伸びにささえられたビデオが前年比72.4%と、大幅な上昇を示した。

(4) 窯業・土石製品工業



58年の窯業・土石製品工業の生産は、99.3で前年比4.4%上昇となった。これは、セメント・同製品が低下したものの、ガラス製品が上昇したことによる。出荷は97.8で同2.2%上昇、在庫は91.1で同11.3%低下となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期2.6%上昇、4～6月期△0.3%低下、7～9月期5.6%上昇、10～12月期0.8%上昇となった。前年同期比では、各期とも上昇した。品目別にみると、ガラス製品、ガラス繊維製品、気泡コンクリート製品等が上昇し、セメント、遠心力鉄筋コンクリートパイプ等が低下した。

(5) 化学工業

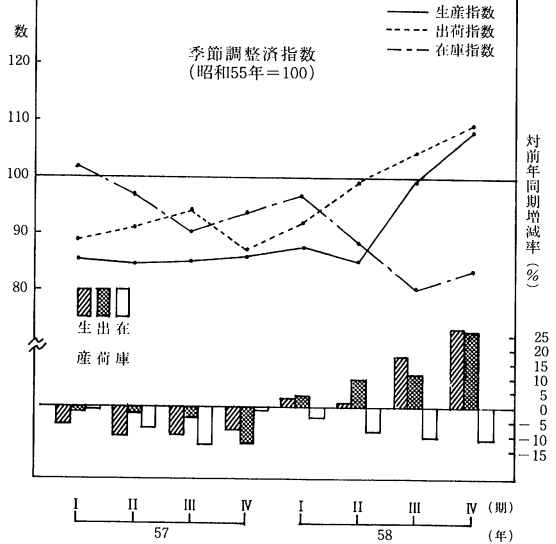
58年の化学工業の生産は、96.5で前年比13.3%上昇となった。これは、有機化学、プラスチック等が上昇したためである。出荷は101.4で同12.7%上昇、在庫は82.6で同△11.9%低下となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期2.1%上昇、4～6月期△2.3%低下、7～9月期16.3%上昇、10～12月期9.6%上昇となった。前年同期比では、各期とも上昇した。品目別にみると、液体塩素、ポリプロピレン等が上昇し、ポリプロピレングリコール、酸化プロピレン等が低下した。

(6) 食料品・たばこ工業

58年の食料品・たばこ工業の生産は、98.7で前年比△0.9%低下、出荷は106.8で同0.5%上昇、在庫は66.9で同△16.0

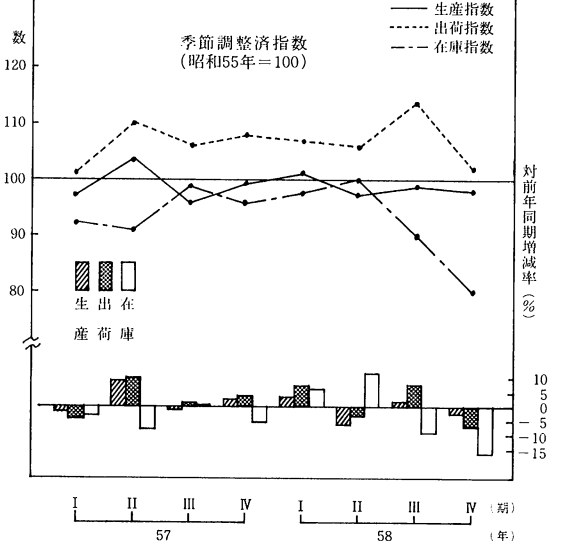
(5) 化学工業



%以下となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期1.2%上昇、4～6月期△2.3%低下、7～9月期0.7%上昇、10～12月期△1.7%低下した。前年同期比では、1～3月期上昇、4～6月期低下、7～9月期上昇、10～12月期低下となった。品目別にみると、飲用牛乳、焼酎等が上昇し、米菓、乳飲料、清涼飲料、たばこ等が低下した。

(6) 食料品・たばこ工業



(統計課・企画分析グループ)